

## 「糖尿病患者における海馬傍回萎縮に寄与する因子の検討」

### 【研究の目的・意義】

国内の糖尿病患者総数は増加の一途をたどっており、40歳をすぎると増え始め、特に70歳以上で4割以上の方が糖尿病あるいは予備群とされ大きな社会問題となっている。糖尿病治療目標は、糖尿病合併症の発症・進展を阻止し健康な人と変わらない日常生活の質の維持、寿命の確保である。

国内65歳以上の高齢者の約7人に1人と推計され、認知症の前段階とされる軽度認知障害(MCI:mild cognitive impairment)と推計される約400万人を合わせると、高齢者の約4人に1人が認知症あるいはその予備群と報告され、今後高齢化がさらに進んでいくにつれ、認知症の患者数がさらに膨らんでいくことは確実です。しかし、認知症には根本的な治療法はなく、早期発見による薬物療法・リハビリ・生活習慣の見直し等での早期対処が認知症進行抑制に重要とされている。認知症検査として、神経心理学検査(ミニメンタルステート検査(MMSE))や脳画像検査(MRI、SPECT、MRI画像を使って脳の萎縮度をみる検査(VSRAD(ブイエスラド))などが活用されている。

糖尿病の方はそうでない方と比べると、アルツハイマー型認知症に約1.5倍なりやすく、脳血管性認知症に約2.5倍なりやすいと報告されています。また、糖尿病治療の副作用で重度な低血糖が起きると、認知症を引き起こすリスクが高くなり、一方で、認知症があると糖尿病も悪化しやすいとも報告されています。

そこで、本研究は糖尿病患者において脳MRI画像による海馬傍回萎縮度評価(VSRAD)の実態を把握し、神経心理学検査や糖尿病合併症の発症・進展との関連性を明らかにすることを目的とする。本研究によりこれらの事が解明されれば医学的貢献は多大であると考えられる。

### 【研究対象者】

杉村病院受診している2型糖尿病患者で

- ・登録時に40歳以上の男女
- ・登録時と約2年後に認知症評価を実施した

を対象とし、50名を予定する。

除外する対象は、

- ・認知症検査に同意されない患者
- ・妊娠予定、妊娠中、授乳中の患者
- ・研究責任者が研究への組入を不適切と判断した患者
- ・本病院ホームページ上のオプトアウトで申し出のあった患者とする。

### 【研究の期間】

2020年7月10日から2025年3月31日まで